



附属図書館ボランティア記念式・講演会開催 ― 活動4年目を迎えて

〔ボランティアカウンター紹介〕

エントランスホールから入館ゲートを入り、メインカウンターを左手にまっすぐ進むとボランティアカウンターがあります。ここでは、

- ・簡単な図書館総合案内
- ・日本語の不得意な外国人の利用補助
- ・身体障害者の利用補助

を行っています。平成10年度は40名の方が、4人ずつ交替でこのカウンターで活動しています。

この他、8名のボランティアが視覚障害者の方に対面朗読のサービスをしています。

〔平成9年度の活動から〕

ボランティアカウンターを利用した人の総数は延3,337人、質問件数は3,770件となっています。利用者の内、17%が学外者、19%が外国人です。図書館の利用に不慣れな利用者にとって、ボランティアカウンターが大いに役に立っていると言えるでしょう。

対面朗読サービスは、延470時間行われました。

この他、留学生のためのオリエンテーションの補助、高校生やPTA等の館内見学案内の活動も定着してきています。

附属図書館では、平成7年6月に発足した附属図書館ボランティアが4年目を迎えたことを記念し、6月1日に、附属図書館ボランティア記念式及び講演会を開催しました。



熱心に耳を傾ける参加者

〔記念式〕

記念式では、斎藤武生附属図書館長、小熊譲附属図書館ボランティア委員会委員長から4年目を迎えた記念の挨拶がありました。また、ボランティアを代表して、ボランティアの自主的組織である「図ボラの会」会長の高田定司さんから「生涯学習の意気に燃え、一生懸命頑張っています。今後も利用者の皆様にとってより一層頼りになる存在たべく努力を続けます。」という意欲溢れる挨拶がありました。



講演をする斎藤館長

〔講演会〕

引き続き、斎藤武生附属図書館長の「ことばの中の世界」と題する講演があり、附属図書館ボランティアに加え、図書館部職員ら50名の出席者が熱心に聴講しました。

斎藤館長は言語文化学の視点から日本語と英語の表現の違いをさまざまな例を示し、説明されました。過去指向と未来指向、起点指向と着点指向、手や足に対する考えかたの相違等をその民族のことに映し出される文化の問題として捉え、明快に語られました。普段、日常会話として私達が何気なく使っている慣用表現にもその国の民族性が反映されていることがよく分かり、日本語に対して新鮮な気持ちを抱かせてくれました。

講演後、ボランティアや学内参加者などから質問が出て、活発な質疑応答が行われました。